

## 基幹水利施設ストックマネジメント事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	農林水産部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ4 地域の豊かさを支え、高いブランド力で国内外に展開する農林水産業						
	施策	施策2 水田農業の収益性の向上						
	目的	「つや姫」をはじめとした本県産品種の「売れる米づくり」の取組みや生産基盤の強化を図り、収益性の高い水田農業を実現する。						
	目標指標(R2)	米による算出額	930億円					
	策定時の実績	668億円	現状	668億円	主要事業	低コスト・省力化に向けた生産基盤の強化		
事業名	基幹水利施設ストックマネジメント事業費			担当課・担当	農村整備課 水利施設整備担当			
事業開始年度	平成20年度			事業終了(予定)年度	未設定			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	基幹的な農業水利施設の多くは、昭和40～50年代に整備されており、更新時期を迎える施設が増加している。このことから、農業水利施設の機能を将来にわたって安定的に発揮するため、施設の機能診断・機能保全計画に基づき長寿命化とライフサイクルコスト低減を図る効率的な保全管理を推進する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコスト低減を図る保全管理事業 <input type="checkbox"/> 施設の機能診断・機能保全計画の策定 <input type="checkbox"/> 基幹的農業水利施設の補修・更新等の対策工事(受益面積100ha以上の県営造成施設) <input type="checkbox"/> 地域農業水利施設の補修・更新等の対策工事(上記以外の県営造成施設及び10ha以上の団体営造成施設) <input type="checkbox"/> 農業水利施設に係る突発事故の緊急補修工事							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：県営については実施規模から委託・請負、団体営については補助で実施							
予算額・決算額 (単位：千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	計画策定	63,619	153,300					
	対策工事	772,275	1,046,850					
	地域農業水利施設	54,881	17,500					
	公共事務費(単独事業費支弁)	42,000	42,000					
	突発事故対応	28,041	25,750					
	計	960,816	1,285,400	0	0	0		
財源内訳 (単位：千円)	国庫支出金	467,870	670,750					
	繰入金							
	その他特定財源	403,675	545,350					
	一般財源	89,271	69,300					
	計	960,816	1,285,400	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	対策工事实施箇所数	活動実績		16	21			
		当初見込み	箇所数	16	16	-	-	
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	基幹水利施設における機能保全計画策定の累計箇所数	成果実績		342	375			
		目標値	箇所数	337	359	393	418	
		達成度	%	101.5%	104.5%			
関連事業								

## 事業目標の考え方(事業目標設定時)

県営造成施設の内、受益面積が100ha以上の基幹的な農業水利施設の総数は856箇所であり、平成28年度までに330箇所(39%)、今後10年間では更に218箇所(累計で64%)が耐用年数を経過する。限られた予算の中で効率的な保全管理が求められている。  
本事業では、平成32年度までに耐用年数を迎える418箇所の機能保全計画策定を目標として設定。

## 事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	耐用年数が超過している施設が年々増加している中、限られた予算の中で、計画的・経済的な保全管理・長寿命化対策の実施を求められている。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	第3次農林水産業元気再生戦略の主な目標指標「基幹水利施設における保全計画策定か所数」に位置づけられている。
	目標水準は妥当か。	A	平成32年度まで耐用年数を迎える418箇所の機能保全計画を策定するという目標達成に向けての妥当な水準である。
	期待する成果が得られたか。	A	33施設で機能保全計画を策定し(累計375箇所)、目標数値の104%の実績である。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	機能保全計画の成果品を活用し対策工事を行い、施設の長寿命化やライフサイクルコストの低減、さらには農業用水の安定供給に寄与している。
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	21施設で長寿命化対策工事を実施し、当初見込みの131%の実績である。
	支出先の選定は妥当か。	A	工事の発注に関しては、その都度、県の審査会を開催して適正な発注を実施しており、妥当なものである。
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	国が定めているガイドラインを基に関係機関と調整し、負担割合を決めている。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	補助対象事業の経費については、実施要綱等の要件に基づき、必要なものに限定されている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	機能保全計画に基づき、適期に必要な長寿命化対策工事を実施することで、低コストでかつ、より効果的な施設の更新を実施している。
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	本事業は、農業水利施設の長寿命化・ライフサイクルコストの低減を目的としたものであり、他部局との役割分担が明確となっている。	
の役割分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・事業の実施要件により、県、市町村、土地改良区が実施主体となり実施している。
今改善の点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業生産活動の基盤となる農業水利施設の機能を安定的に発揮するため、計画的な保全対策に取り組んでいく。</li> <li>○ 施設老朽化の進行に伴い突発的な事故が増加していることから、緊急補修工事等の対応を強化し、営農への被害拡大防止を図っていく。</li> </ul>		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない